



「コインチェック」ファンタジーフットボールゲーム「Sorare」で使用するNFTを13種類の暗号資産と交換へ



暗号資産（仮想通貨）交換業のコインチェック（東京都渋谷区）は、実名のサッカー選手を用いるカードゲーム・ファンタジーフットボールゲーム「Sorare」を運営するフランスのSorare社と連携し、ゲームで利用可能なNFT（非代替性トークン）を、13種類の暗号資産と交換できる「Coincheck NFT（β版）」内で取り扱う方向で検討を始めた。

580億円分もの暗号資産NEMの不正流出事件で経営危機に陥っていたコインチェックは、2018年4月にマネックスグループ<8698>の傘下に入り、再建に取り組んできた。

当時マネックスグループの松本大社長（現会長）は「M&Aは結婚のようなもの。買い物ということではなくファミリーとなって一緒に新しいサービスを作っていく」としており、今回の取り組みはその一環。

コインチェックは、マンガやアニメ、スポーツなどの分野でNFTを使った事業を検討しているパートナー企業を募集しており、今後連携の幅が広がりそうだ。

カードの販売額は月間7000万ドル

ファンタジーフットボールゲームは、好きな選手を組み合わせた仮想のサッカーチーム作り、他のチームと得点を競うゲームで、実際の試合結果が得点に反映されるため、欧州を中心に人気が高まっている。

Sorareは、クラブ公式のサッカー選手のデジタルカードを取り引きでき、世界140以上のクラブと提携している。カードの販売額は140カ国で月間7000万ドル（約77億円）を突破しているという。

NFTは暗号資産と同じように、ブロックチェーン（分散型台帳）上で発行され取り引きされるもので、偽造ができず固有の価値を証明できるデジタルデータを指す。アート作品の真正性の証明などに用いられており、今回はサッカー選手のデジタルカードの交換に用いる。

コインチェックでは、すでにブロックチェーンゲーム「CryptoSpells」や「The Sandbox」などで利用可能なNFTを取り扱っている。

文：M&A Online編集部